



TOYODA GOSEI

2025年4月11日

～カーボンニュートラル実現に向けた再エネ利用拡大の取り組み～

米国の生産拠点に太陽光発電所を新設

豊田合成株式会社(本社:愛知県清須市、社長 兼 CEO:齋藤克巳)の米国グループ会社である TG ミズーリ株式会社(以下、TGMO)は、使用電力の再生可能エネルギー(以下、再エネ)への転換を進めるため、工場敷地内に太陽光発電所を新設し、再エネの利用を拡大します。

今回 TGMO では、再エネ事業者を通じて、遊休地を活用して太陽光発電設備(出力 17.5 メガワット、2027 年 4 月運転開始予定)を設置[※]し、工場全体の年間使用電力の 3 割を再エネに切り替えます。これによる CO₂ 削減効果は年間約 1.4 万トンを見込んでおり、当社グループの米州地域における再エネ利用は 4 割超となります。

当社は、自社の生産活動などで発生する CO₂ 排出量(スコープ 1・2)について、カーボンニュートラル実現時期の 2030 年への前倒しを宣言(2023 年)し、「生産技術革新と日常改善による省エネ」と「電力の再エネへの転換」を加速させています。再エネへの転換においては、自社での太陽光発電の他に、グリーン電力の活用なども進めています。今後も、豊田合成グループ全体が一丸となり、多様な再エネの調達手段を最適に組み合わせることで、2030 年のカーボンニュートラル達成を目指していきます。

※ 蓄電池(容量 30 メガワット時)も併設

<TGMO>



<2030 年までの CO₂ 削減ロードマップ(イメージ)>

